

いわて復興だより



平成 23 年 3 月 11 日に東日本大震災津波が発生しました。発災以来、国内外から多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げ、この「つながり」を大切にしていきたいと思っております。

がんばろう！岩手 つながろう！岩手 第 170 号 令和 3 年 2 月号

復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します

「東日本大震災津波を語り継ぐ日」条例 制定

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災津波により、本県では、かつて経験したことのないような被害を受け、突然に多くの大切な人を失いました。自然災害はいつでもどこでも誰にでも起こりうることを知るとともに、家族や友人、地域、国内外の人たちとの絆や人と人との支えあうことの大切さを改めて実感しました。

発災直後からこれまで、国内外から数多くの支援をいただきながら、復旧・復興に全力を挙げて取り組んできました。今後も復興に向けた歩みは続いていきますが、二度と同じ悲劇を繰り返さないために、復興が果たされる日が来ても、震災の記憶を風化させることなく、震災を体験していない世代やこれから生まれてくる子供たちにもあの日の

悲しみと教訓を伝承していく必要があります。また、震災により亡くなった人々の果たせなかった想いを引き継ぎ、未来のために力を合わせてより良い地域を創造し築いていくことが重要です。

こうしたことから、県では令和 3 年 2 月に条例を制定し、震災により亡くなった多くの尊い命に追悼の意を表し、震災の教訓を伝承するとともに、これまでの復興に向けた歩みの中で得られた多くの絆を大切に、一人ひとりの大切な人に想いを寄せ、ふるさと岩手を築いていくことを誓い、東日本大震災津波を語り継ぐ日を定めました。



東日本大震災津波を語り継ぐ日

東日本大震災津波を語り継ぐ日は

3月11日 とします。

県の取組、県民の取組の促進

県は、市町村その他の団体と連携して条例の趣旨の普及や趣旨に沿った取組を行うとともに、市町村等が行う取組への協力や県民の自発的な取組の促進に努めます。

令和 2 年度第 2 回いわて復興未来塾 開催

盛岡市

MORIOKA

岩手県では、令和 3 年 1 月 31 日（日）及び 2 月 1 日（月）に「令和 2 年度第 2 回いわて復興未来塾」（主催：岩手県、いわて未来づくり機構）を開催しました。両日ともエスポワールいわて（盛岡市）を会場に、1 日目は「全体会」、2 日目は「内陸報告会」とし、「間もなく 10 年 復興のこれから」をテーマに開催されました。

■ 全体会 1/31 ■

1 月 31 日（日）に行われた全体会では、インターネット視聴を含め 283 名が参加しました。

達増知事は挨拶で、「復興は着実に進んできている。犠牲者の想いを引き継いで取り組むこと、常に原点に立ち返ることが大事である」と述べました。

岩手朝日テレビ営業部アシスタントマネージャーの山田 理（おさむ）さんが「東日本大震災から 10 年 テレビが伝えたこと 伝えられなかったこと」と題して基調講演を行いました。震災当時のテレビ局内の状況や、メディアの災害報道等について語りました。

その後、宮古市産業振興部観光課おもてなし係係長の

松浦 宏隆（ひろたか）さんが「瓶ドン誕生物語」、株八木澤商店代表取締役社長の河野 通洋（みちひろ）さんが「復興は発酵と健康で町おこし」と題して事例報告を行いました。



（左から司会の人前ますよさん、山田さん、達増知事、松浦さん、河野さん）

■ 内陸報告会 2/1 ■

2 月 1 日（月）に行われた内陸報告会では、インターネット視聴を含め 170 名が参加しました。

地方共済組合理事長で、元復興庁事務次官の関 博之（ひろゆき）氏が東京からリモート出演し、「間もなく 10 年 復興のこれから」と題して基調講演を行いました。

その後、全国の自治体（群馬県、三重県、宮崎県、東京都）からの応援職員が登壇し、水道施設の災害復旧や県内沿岸部の雇用確保の取組などの事例が報告されました。最後に関氏から総評をいただき、激励がありました。

震災から間もなく 10 年、これまでの復興の歩みを振り返り、より良い復興（ビルド・バック・ベター）に思いを寄せる機会となりました。



関氏による基調講演の様子

全体会の視聴
はこちら



内陸報告会の
視聴はこちら



宮古市重茂水産体験交流館 「えんやあどっと」開所

宮古市
MIYAKO

令和3年1月8日（金）、宮古市では、重茂水産体験交流館「えんやあどっと」が開所しました。同日に行われた開所式では、関係者ら約50名が出席し、山本宮古市長は「宮古の水産物の魅力をまるごと体験できる施設を通じ、水産振興につなげたい」と挨拶しました。

この施設は、宮古市が復興交付金などを活用して整備したもので、宮古市と重茂漁業協同組合で運営します。施設の愛称は、地元重茂の小中学校の各学級から募集し、重茂小学校の6年生が提案した「えんやあどっと」に決定しました。

「えんやあどっと」では、水産加工体験をはじめ、漁師の食体験コーナーや海産物の展示販売も手掛けており、今後、漁業の担い手育成の拠点としても活用していきます。



食体験コーナーの様子

■問い合わせ：重茂漁業協同組合 ☎ 0193-68-2301

県営南青山アパート 完成式開催

盛岡市
MORIOKA

令和3年2月11日（木・祝）、岩手県では、県内最後の整備となった災害公営住宅「県営南青山アパート」の完成式が開催されました。

この完成式は盛岡市西部公民館で開催され、入居者等約30名が参加しました。達増知事は挨拶で、「心のケアやコミュニティ形成支援など、切れ目のない復興を続けていく」と述べました。また、入居者への鍵渡しが行われ、入居者代表にはレプリカの特大キーが渡されました。これにより、114名（65戸）の入居が開始となりました。完成式後には、入居者のサポートを目的として同アパートに併設された「支援センター」のお披露目式も行われました。

県では、3月中に、応急仮設住宅に住んでいる全ての方々が恒久的な住宅に移る見通しとなりました。



入居者代表への特大キー贈呈の様子

■問い合わせ：岩手県県土整備部建築住宅課
☎ 019-629-5934

世界へ、未来へ、「いわて TSUNAMI メモリアル」

東日本大震災津波の事実と教訓を伝える施設「東日本大震災津波伝承館」
（いわて TSUNAMI（つなみ）メモリアル）を紹介します。

東日本大震災津波伝承館では、令和2年9月から10月にかけて伝承館を訪れた約600人を対象とした、来館者の属性や動態に関するアンケート調査の結果を取りまとめました。

この調査は、顧客満足度の向上や、来館者が三陸沿岸地域へ足を運ぶ際の起点となる「ゲートウェイ機能」の実態把握等を目的として、岩手県立大学地域協働研究事業の採択を受け、同大学総合政策学部の協力を得て実施したものです。

調査結果によると、居住地別の来館者は県内が203人（33.8%）、県外が398人（66.2%）となり、県外の中でも宮城県が92人（23.1%）で最も多く、次いで東京

都が42人（10.6%）、埼玉県が36人（9.0%）と続きました。

また、「伝承館を起点としてこれまで訪れた、または訪れてみたい観光施設等」の項目では、浄土ヶ浜（宮古市）、中尊寺・毛越寺等（平泉町）、龍泉洞（岩手町）が上位に並び、三陸沿岸道路の開通効果もあり、2泊程度の宿泊を伴う広域な周遊ニーズがあることが分かりました。

伝承館では、引き続き調査結果の分析を進め、また、関係機関とも共有・連携しながら、顧客満足度の向上とともにゲートウェイ機能の強化に努めます。



伝承館 HP は
こちら



ゲートウェイ
機能調査の
詳細はこちら



■問い合わせ：東日本大震災津波伝承館
☎ 0192-47-4455

来館者 (居住地別)	居住地	人数	割合
	岩手県内	203	33.8%
	岩手県外	398	66.2%
	北海道東北	154	25.6%
	北関東甲信	41	6.8%
	南関東	130	21.6%
	北陸	12	2.0%
	東海	16	2.7%
	近畿	31	5.2%
	中国	2	0.3%
	四国	0	0.0%
	九州	11	1.8%
	不明	1	0.2%

東日本大震災津波の被害を受けた沿岸地域の郷土芸能の復興の姿と支援への感謝をお伝えしていきます。
今回は、大槌町の郷土芸能「吉里吉里大神楽」について、平野 榮紀（ひらの えいき）さんに伺いました。



吉里吉里大神楽保存会
会長
平野 榮紀 さん

「吉里吉里大神楽」は、江戸時代前期に大槌町吉里吉里地区を本拠地とする豪商・前川善兵衛（まえかわ ぜんべえ）の子孫が獅子頭を地元へ寄贈した際、獅子頭の中に寛政の文字が刻まれていたことから、伝承され始めたのは江戸時代だろうと考えられています。

「吉里吉里大神楽」は、獅子頭を動かす人と、その後ろで幕を操る人の二人一組で踊るもので、前川善兵衛が江戸と交易をしていた影響からか、獅子頭の風貌は江戸風で穏やかな顔が特徴です。毎年8月に地元の天照御祖（みおや）神社で行われる例大祭では、神輿の前を歩き、神輿を守りながら町を巡行します。

震災前は、練習場に使っていた会館に山車、道具一式を保管し、神棚を作って獅子頭を並べていたのですが、津波で江戸時代から受け継がれてきた獅子頭をはじめ、全て流失しました。

震災の年は8月の祭りの開催も危ぶまれましたが、せ

めて祭りだけはやろうと、私たちも瓦礫の中から見つけたはんてんを洗濯し、吉里吉里の小中学校で「ふるさと科」という授業で使っていた太鼓を借りて祭りに参加しました。

震災後は多くの支援を受けて活動してきましたが、年々地域の子どもたちも減少する中、郷土芸能の伝承を心配しています。吉里吉里には、神楽、虎舞、鹿踊りと3つの郷土芸能があり、小中一貫教育校吉里吉里学園では、小学4年生から中学3年生までの全生徒が参加し、「ふるさと科」という授業として郷土芸能を学んでいますので、私たちも協力を惜まず、ともに伝承活動を続けていきます。



吉里吉里大神楽
の獅子頭



吉里吉里大神楽の演舞

（写真提供：吉里吉里大神楽保存会）



さんりくイベント情報



EVENT

東日本大震災における 復興記録展

北上市
KITAKAMI

東日本大震災津波から10年。震災当時からこれまで沿岸勤務を経験した職員の記憶（記録）や復興のあゆみを紹介します。

期 間：2/19（金）～3/19（金）

* 土日祝祭日もあります

時 間：9：00～16：00

場 所：北上地区合同庁舎1階 県民ホール

問い合わせ：県南広域振興局土木部北上土木センター

☎ 0197-65-2738

龍泉洞ミニ写真展

岩泉町
IWAIZUMI

日本三大鍾乳洞の一つとされる龍泉洞は、洞内に棲むコウモリとともに国の天然記念物に指定されています。

龍泉洞内では、過去の調査の様子や営業開始当時の懐かしい写真などを紹介する期間限定の「ミニ写真展」が開催されます。

期 間：1/16（土）～3/28（日）

時 間：10：00～16：00

場 所：龍泉洞内「ワイン貯蔵庫前」

問い合わせ：龍泉洞事務所 ☎ 0194-22-2566

三陸・大船渡 第24回つばきまつり

大船渡市
OFUNATO

世界13か国、約550種類のつばきが展示されます。期間中は椿苗やグッズの販売、クイズラリーや写真撮影用スポットが設置され、日・祝日にはイベントも開催されます。

期 間：2/6（土）～3/21（日）

時 間：9：00～17：00

場 所：世界の椿館・暮石

問い合わせ：つばきまつり実行委員会事務局

（大船渡市農林水産部農林課）

☎ 0192-27-3111

「祈りの灯火2021」 未来に向かってまた一步

盛岡市
MORIOKA

盛岡城跡公園内「もりおか歴史文化館前広場」をメイン会場として、全国の方々から送られた約1万個の灯籠に灯りをともし、被災地の復興と犠牲者の鎮魂を祈ります。

期 日：3/11（木）

時 間：13：00～19：00（黙とう14：46 点火16：50）

場 所：盛岡城跡公園（もりおか歴史文化館前広場）、
中津川河川敷（中の橋付近）、東大通商業振興会各店

問い合わせ：祈りの灯火実行委員会

☎ 090-2973-4035



「夢海公園」は、平成31年4月に供用が開始され、公園敷地内には、被災した「茶茶丸パーク時計塔」が震災遺構として保存されています。



茶茶丸パーク時計塔



止まったままの時計



夢海公園

夢海公園は、隣接する商業施設と連携したイベントやレクリエーション活動など、多くの方々の交流に役立てられるよう大船渡市が整備したものです。

公園内の「茶茶丸パーク時計塔」は、震災前、大船渡大通り商店街のシンボリック存在として市民に親しまれていましたが、津波に襲われた午後3時25分で針が止まったままとなっていたものを公園の完成に合わせて移設されたものです。

「夢海公園」と「茶茶丸パーク時計塔」は、震災伝承ネットワーク協議会震災伝承施設に登録されています。

■所在地：大船渡市大船渡町字茶屋前 160 番地
■問い合わせ：大船渡市住宅公園課
☎ 0192-27-3111 (内線 328)



連載「いわてさんりくびと」では、被災地・三陸の復興に向け、熱い想いをもち、活躍する方々を紹介していきます。

第116回は、鬼東 拓哉さんを紹介いたします。

PROFILE

宮城県宮崎市出身。都城市の専門学校でプログラムを学んだ後、システムエンジニアとして東京都内に就職する。

平成27年に普代村の地域おこし協力隊として普代村に移住し、退任後の現在、普代村の豆腐店を承継し、豆腐の移動販売を行いながら豆腐田楽の商品開発に取り組む。

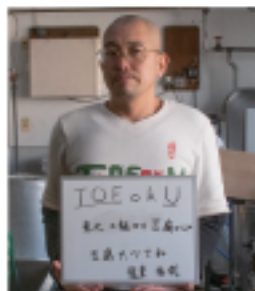
一次産業の重要性を感じ

震災発生時、首都圏も大きな揺れに襲われ、その後しばらくの間は、ガソリンや食料品などが手に入らない状況が続きました。

当時は東京に在住し、その状況を目の当たりにした鬼東さんは、一次産業に興味を持ち、生産者を地域で支援する環境の実現に取り組むこ

いわてさんりくびと

TOFokU (とうふおく)
CTO (最高豆腐責任者)
鬼東 拓哉さん
(おにつか たくや)



TOFokU
東北の魅力を豆腐から！
豆腐たべてね

とを決心しました。

平成27年、普代村に移住した鬼東さんは、ほうれん草や原木椎茸の栽培に携わると同時に、普代村のPRに力を注ぎます。

「ネット環境とパソコンがあればどこでも仕事はできます。その中で一次産業にも関わりながら、自分に合った仕事もできると思います。」と鬼東さんは、普代村での暮らしを話します。

地域の人気店を継続して

地域おこし協力隊の任期中に知り合った豆腐店が閉店することを知り、退任後、鬼東さんは、その店を継ぎ、自分で作った豆腐の村内での移動販売と県内数店への卸しを行っています。

「豆腐を作った経験はありませんでしたが、好きだった豆腐店が閉店するのを残念に思い、地域に根付いたお店を継続したいと思いました。今は豆腐田楽を開発中です。今後、三陸鉄道と連携して沿岸各地に豆腐や豆腐田楽を届けたいと思っています。」と抱負を語ります。

岩手県の被害状況

令和3年1月31日現在

皆さんのご支援、ありがとうございます

令和3年1月31日現在

- ▶人的被害 死者(直接死): 4,674人 行方不明者: 1,111人
死者(関連死): 470人
▶建物被害(住家のみ、全半壊) 26,079棟

被害状況等の詳細
義援金・寄付金の募集等

いわて防災情報ポータル

検索

- ▶義援金受付状況 約187億5325万円(97,814件)
▶寄付金受付状況 約201億5597万円(10,755件)
▶いわての学び希望基金(※)受付状況 約102億7688万円(25,312件)
※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。



いわて震災津波アーカイブ～希望～
約24万点の資料を検索・閲覧できます。



いわて震災津波アーカイブ

検索

いわて復興だより 第170号 令和3年2月24日発行
企画・発行：岩手県復興局復興推進課 ☎ 019-629-6945
編集・印刷：シナプス